

層雲峡ビジターセンター



〔黒岳沢から望む黒岳・5月〕

大町桂月と黒岳沢

黒岳沢は「層雲峡」の名付け親である明治の文豪・大町桂月が大雪山に登った記念すべきルートです。1921年8月、桂月の一行は黒岳沢を遡行して稜線に上がって黒岳に登り、御鉢平を周回、北鎮、北海、白雲、旭岳を踏んで、松山温泉(現在の天人峡温泉)に下山する3泊4日の大縦走を行いました。大雪山にはまだ登山道がなかったこの時代、未開のルートを行く桂月一行は次々と現れる滝をよじ登りながら前へ進むものの、ついには30m超の大滝に行く手を阻まれ、大きく迂回してひたすら藪漕ぎをし、やっとの思いでハイマツ帯を抜けて尾根に出ることができたそうです。

桂月の大雪山行から2年後の1923年、北海道山岳会が黒岳一旭岳の登山道の整備と黒岳石室、旭岳石室の山小屋建設を実現させました。今年はそのから100年の記念すべき年です。桂月の山旅に思いをはせながら、黒岳に登ってみませんか？

※黒岳沢は現在、工事のため関係者以外立ち入り禁止となっています。

通常期も入林に際しては、森林管理署への申請が必要となります。



(黒岳沢に生育するチャツボミゴケ)

【チャツボミゴケ】

火山由来の鉱泉水や温泉など金属イオンを含む強酸性の水辺に生える特殊なコケ。色鮮やかな萌黄色で、まるでビロードのよう。神秘的でとても美しく、思わず見入ってしまいます。

もっと知りたい！層雲峡

～当センターのスタッフが、皆さんに知ってほしいことや
あまり知られていない層雲峡のあれこれをご紹介します～

【冬芽】



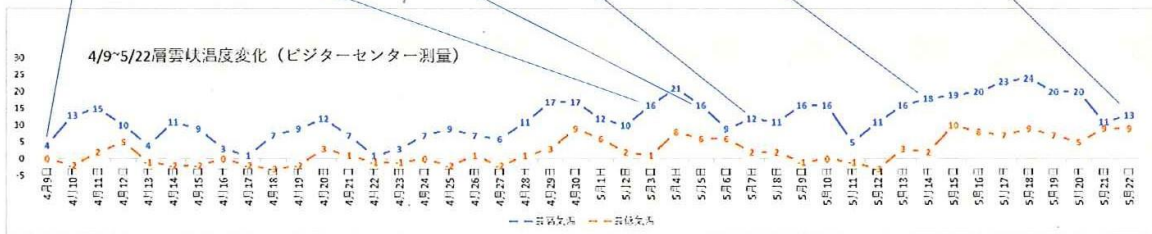
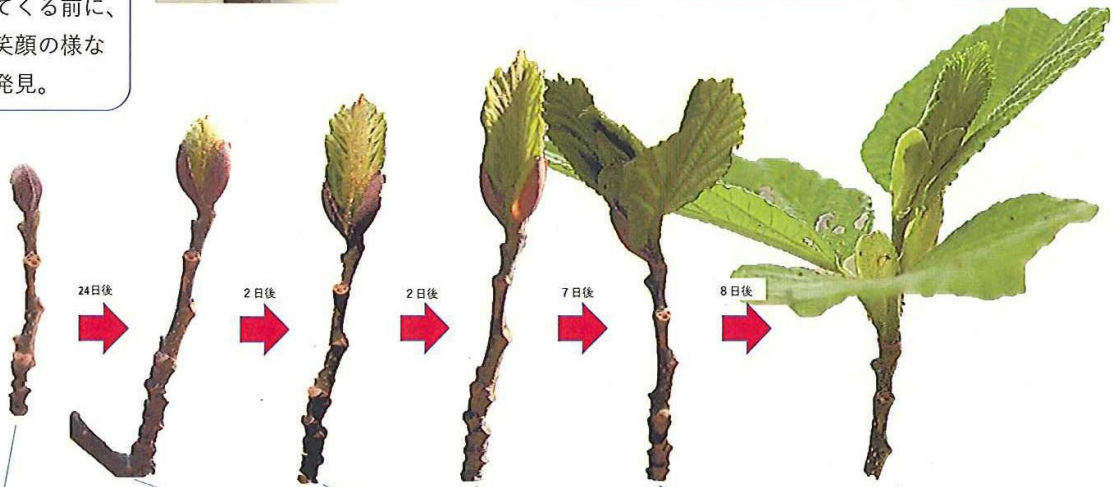
葉痕 (ようこん)
葉が落ちたあと
維管束痕 (いかんそくこん)
水分と養分を葉へ
送る通路の断面

笑顔の秘密

葉が出てくる前に、
枝先の笑顔の様な
断面を発見。

冬芽の目覚め

冬の間に、落葉樹が裸のように見えるけど、
実は春の芽吹きのために、冬芽 (ふゆめ)
が準備されていた。春が近づき、暖かい日
が多くなり、冬芽も冬眠から目覚めるよう
たたまった翼を広げ始める。今回はケヤマ
ハンノキの冬芽の成長を観察しました。
太陽からの温もり、土壌と空気からの水分
と養分を沢山もらって、ゆっくりと変化し
てゆく姿がとても美しいです。



(トビ)

春紅葉も楽しめます！ 【層雲峡の春紅葉 5/19】



4月下旬から5月中旬にかけて山々の木々に見られる光景が「春紅葉」です。これは、広葉樹が本格的な光合成を経て新緑になる前に、葉が本来もつ赤や黄色の色素が現れて紅葉したように見える現象を指します。赤や黄色の春紅葉に若々しい新緑や針葉樹の深い緑、桜のピンク色と様々に彩られ、北国の春の山は思いのほか華やかです。

エゾアカガエルにも春が来た！

4月下旬、大函周辺でエゾアカガエルに会いました。本種は北海道の数少ない在来両生類の一つです。繁殖期は、雪解け直後の4~5月ですが、高山帯では7月頃になることもあります。北海道の海辺の平地から大雪山の高山帯まで幅広く分布しているエゾアカガエル。7月、大雪山でエゾアカガエルの観察はいかがですか？



【卵】



【成体】

層雲峡ビジターセンター (電話) 01658-9-4400

〒078-1701 北海道 上川郡 上川町 字 層雲峡 ウェブサイト <http://sounkyovc.net>